

問 17 現状のサービス管理責任者等に対して求めていることは何ですか。また、今後求められるサービス管理責任者等像についてどのようにお考えですか。実際のサービス管理責任者等の方の知識・技術レベル、働き方について、および今後求められる像について、お考えをお書きください。

現状のサービス管理責任者等に求めること	今後求められるサービス管理責任者等像

問 18 今後のサービス管理責任者等のキャリア形成における課題やキャリア形成の在り方等について、お考えのことをご自由にお書きください。

--

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

サービス管理責任者等の研修に関するアンケート

※先に（別紙）の説明を十分お読みの上ご回答ください。

問1 あなたが所属する事業所の所在地をご回答ください。

_____ 都・道・府・県 _____	_____ 市・区・町・村 _____
---------------------	---------------------

問2 事業所が属する法人の種類（経営主体）についてご回答ください。（○は1つ）

1. 株式会社等（民間企業）	6. 協同組合（農協、生協）
2. NPO（特定非営利活動法人）	7. 医療法人
3. 社団法人・財団法人	8. 地方自治体（市区町村、広域連合を含む）
4. 社会福祉協議会（社協）	9. その他（ _____ ）
5. 社協以外の社会福祉法人	

問3 事業所が実施している分野をご回答ください。（複数回答）

1. 身体分野	2. 知的分野	3. 精神分野	4. 児童分野
---------	---------	---------	---------

問3-1 事業所が実施しているサービスをご回答ください。（複数回答）

1. 療養介護	7. 就労継続支援（B型）
2. 生活介護	8. 施設入所支援
3. 自立訓練（機能訓練）	9. 共同生活援助（グループホーム）
4. 自立訓練（生活訓練）	10. 児童発達支援
5. 就労移行支援	11. その他（具体的に _____ ）
6. 就労継続支援（A型）	

問4 あなたの役職をご回答ください（○は1つ）

1. 管理者	3. 主任	5. その他（ _____ ）
2. 課長	4. 役職は特にない	

問5 あなたがお持ちの資格をご回答ください（複数回答）

1. 社会福祉士	6. 理学療法士
2. 精神保健福祉士	7. 作業療法士
3. 介護福祉士	8. 言語聴覚士
4. 介護職員実務者研修	9. 看護師
5. 介護職員初任者研修	10. その他（ _____ ）

問6 あなたの性別をご回答ください。（○は1つ）

1. 男	2. 女
------	------

問7 あなたの年齢をご回答ください。(○は1つ)

1. 29歳以下	3. 40歳～49歳	5. 60歳以上
2. 30歳～39歳	4. 50歳～59歳	

問8 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者取得年(西暦)をご回答ください。(複数取得している場合は最初の取得年をご回答ください)

_____年

問9 介護・福祉の仕事に従事した年数(経験年数)をご回答ください。

_____年

問10 あなたはサービス管理責任者等指導者養成研修にて講師をしていましたか、ファシリテーターをしていましたか。(○は1つ)

1. 講師	3. 講師とファシリテーターの両方
2. ファシリテーター	4. どちらも行っていない

問11 あなたは、国と県どちらの研修を受けましたか。また、サービス管理責任者等研修を受講したときの分野に○をつけてください。(複数回答)

国と県どちらの研修を受けましたか(複数回答可)	サービス管理責任者等研修を受講したときの分野(複数回答)				
	1. 介護	2. 地域生活(身体)	3. 地域生活(知的・精神)	4. 児童	5. 就労
国の主催する指導者養成研修					
県の主催する研修					

問12 あなたは、現在所属先でサービス管理責任者あるいは児童発達支援管理責任者として業務を行っていますか。(○は1つ)

1. はい →問12-1, 2, 問13へ	2. いいえ →問14へ
-----------------------	--------------

問12-1 ↓あなたは現在、サービス提供の現場での仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 行っている	2. 行っていない →問14へ
----------	-----------------

問12-2 現在あなたがサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者として個別支援計画を管理している利用者は何人ですか。

_____人	うち実際にご自身で作成した人数 _____人
--------	------------------------

問13 あなたは、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者1人が個別支援計画を管理する利用者数は何人までが適正だと思いますか。

_____人	うち実際にご自身で作成する人数 _____人
--------	------------------------

サービス管理責任者等研修体系について、現在、本研究班では別紙の素案を検討中です。以下、この研修体系（素案）について伺います。

1. 研修体系の骨子について

研修体系の骨子について伺います。図1および次ページ図2（別紙の一部抜粋）をご参照の上お答えください。

図1 研修体系(素案)の概要

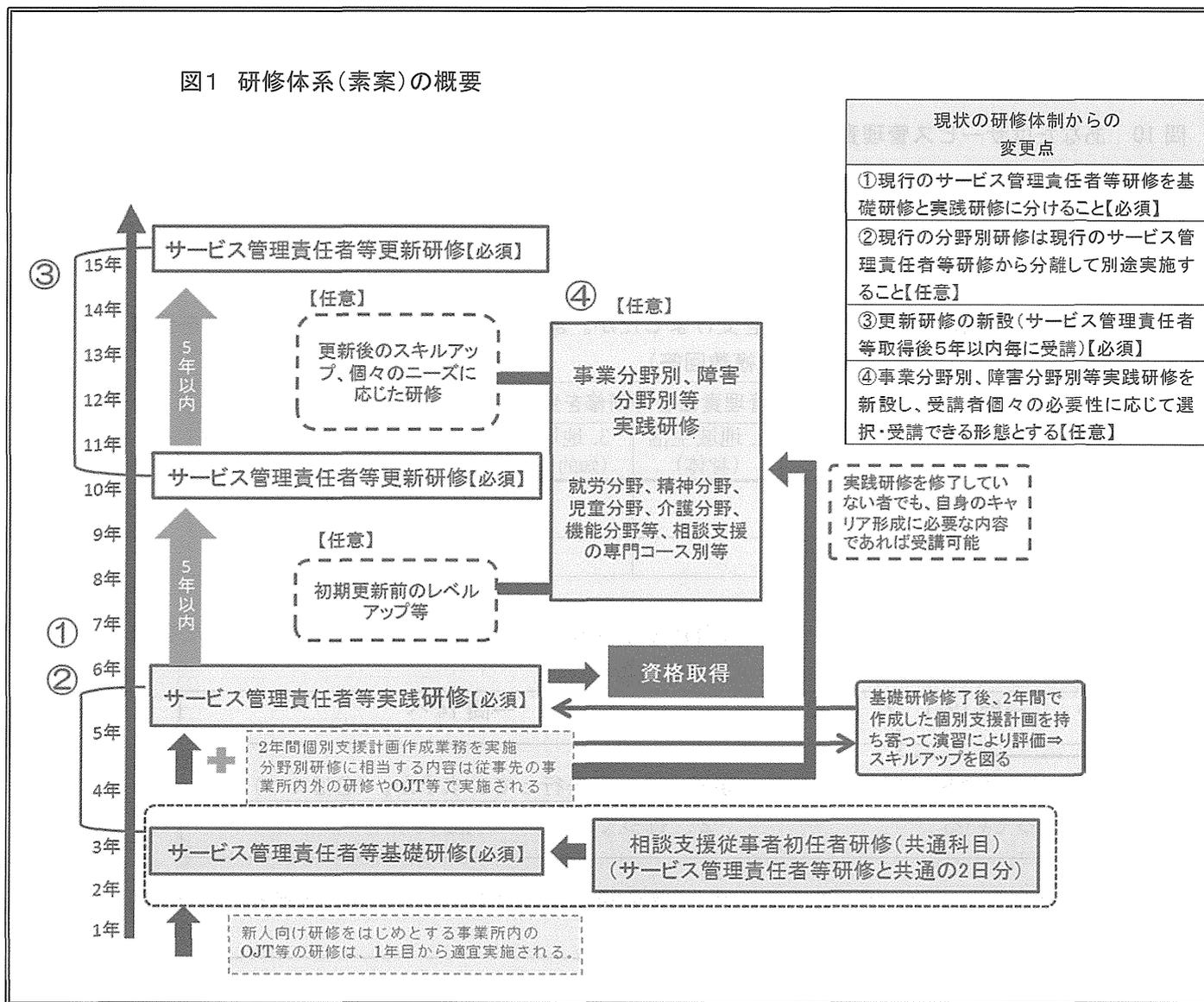
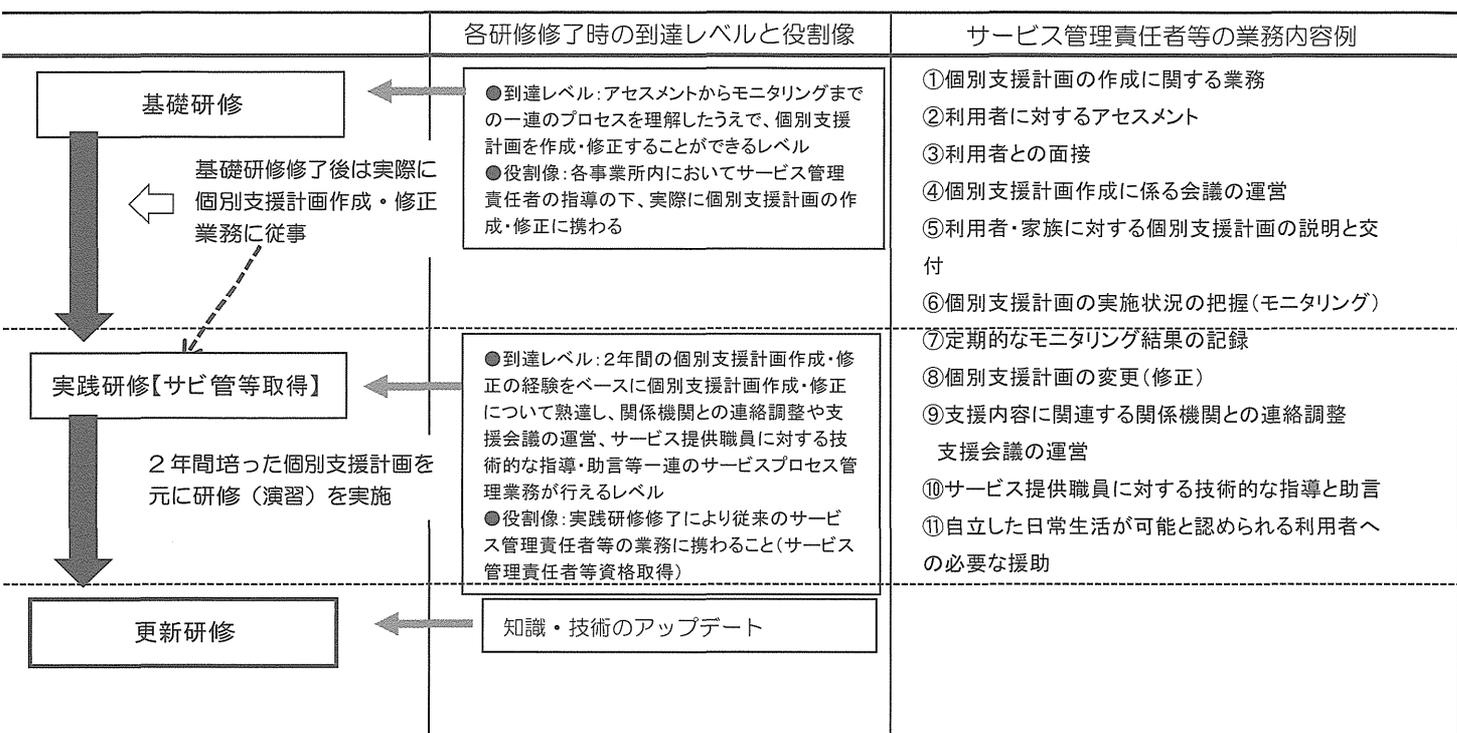


図2 サービス管理責任者等の役割像と研修イメージ



問 14 現状の研修体制からの変更点ごとに、変更の必要性についてキャリア形成の視点でどのように思われるか最も近いものに○をつけ、そう思われる理由をお書きください(それぞれ○は1つ)

現状の研修体制からの変更点	だと思 う				理由
	とても必要	まあ必要だ と思う	あまり必要 と 思わない	全く必要と 思わない	
① 現行のサービス管理責任者等研修を基礎研修と実践研修に分けること【必須】	1	2	3	4	
② 現行の分野別研修は現行のサービス管理責任者等研修から分離して別途実施すること【任意】	1	2	3	4	
③ 更新研修の新設(サービス管理責任者等取得後5年以内毎に受講)【必須】	1	2	3	4	
④ 事業分野別、障害分野別等実践研修を新設し、受講者個々の必要性に応じて選択・受講できる形態とする【任意】	1	2	3	4	

2. 各研修について

別紙に記載した(1)～(4)の各研修について伺います。以下に各研修の概要について抜粋して掲載しておりますので、別紙に記載の研修項目・獲得目標と併せてご覧になりご回答ください。

サービス管理責任者等基礎研修（主に個別支援計画作成）について伺います。

(1) サービス管理責任者等基礎研修（別紙P. 4参照）

目的：・障害福祉サービス等提供事業者等の職員として、障害福祉サービス等の提供に関する基本的な理念や倫理等の基礎を押さえる。
・サービス等利用計画と個別支援計画の関係や、個々の利用者に応じた『個別支援計画』の意味・知識・技術等の原則論を押さえる。
・『個別支援計画』作成・修正の能力を、演習等を通じて獲得する。
・各分野ごとの視点についても講義で押さえておく。
・修了時の到達レベルはアセスメントからモニタリングまでの一連のプロセスを理解したうえで、個別支援計画作成・修正することができるレベルとする。
・修了後の役割像としては、各事業所内においてサービス管理責任者の指導の下、実際に個別支援計画の作成・修正に携わることを想定。
・基礎研修修了者は、基礎研修終了後2年間において個別支援計画作成の臨床を経た後に、実践研修を受けるものとする。
・制度的には、基礎研修修了者は事業所において個別支援計画を作成することができるように構築する。

対象：サービス提供事業所等において3年の実務経験を経た者等

問15 研修の目的についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 十分だと思う | 3. あまり十分だとは思わない |
| 2. 概ね十分だと思う | 4. 不十分だと思う |

問15-1 その理由をお答えください。(自由記載)

--

問 16 以下の研修項目は個別支援計画を作成する上でどの程度必要と思いますか。最も近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

さらに、各研修を受講するとした際に、ご自身が各研修内容の修得に必要なと思われる時間数(何時間くらいで修得できると思うか)をお書きください。

	だとも必要 だと思 う	とも必要 だと思 う	まあ必要 だと思 う	あまり必要 と思 わない	全く必要 と思 わない	時間 数	ご 自 身 が 修 得 に 必 要 な 修 得 に 必 要 な 時 間 数
1. 障害者福祉施策及び児童福祉施策の歴史の変遷(講義)	1	2	3	4			時間
2. サービス管理責任者等の役割と業務(講義)	1	2	3	4			時間
3. サービス提供の基本的な考え方(講義)	1	2	3	4			時間
4. サービス提供のプロセス(講義)	1	2	3	4			時間
5. サービス等利用計画等と個別支援計画の関係(講義)	1	2	3	4			時間
6. サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント(講義)	1	2	3	4			時間
7. 個別支援計画作成のポイントと作成手順(講義)	1	2	3	4			時間
8. 個別支援計画の作成(演習)	1	2	3	4			時間
9. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(講義)	1	2	3	4			時間

問 16-1 その他、サービス管理責任者等基礎研修(主に個別支援計画作成)において更に必要だと思う研修項目があれば、お答えください。(自由記載)

問 17 上記研修内容を受講するために、あなたご自身が受講されるとしたら何日間であれば実際に受講可能ですか。連続で受講する場合と1カ月間で受講する場合(日数と受講方法)についてお答えください。職場を離れられる日数や、取得できる有給休暇の日数等から、現実的な日数をお答えください。

連続での受講可能日数	1カ月間での受講可能日数	受講方法
連続 日間	1カ月間に 日間	

※例) 1カ月の間に4日間 受講方法:隔週土日

問 17-1 その理由をお答えください。(自由記載)

問 18 サービス管理責任者等基礎研修(主に個別支援計画作成)の受講要件についてお伺いします。
受講要件を実務経験3年以上に設定することについてどのように思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 長すぎると思う | 3. 妥当だと思う | 5. 短すぎると思う |
| 2. やや長いと思う | 4. やや短いと思う | |

問 18-1 その理由をお答えください。(自由記載)

--

問 19 現在、サービス管理責任者等研修カリキュラムの最初の2日間を相談支援従事者初任者研修と共通項目として行うことについて、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 対象をサービス管理責任者等研修受講者のみにすべき |
| 2. 対象をサービス管理責任者等研修受講者のみにする方が望ましい |
| 3. 相談支援従事者初任者研修受講者と一緒に受講する方が望ましい |
| 4. 相談支援従事者初任者研修受講者と一緒に受講すべき |

問 19-1 その理由をお答えください。(自由記載)

--

サービス管理責任者等実践研修について伺います。

(2) サービス管理責任者等実践研修 (別紙 P. 5 参照)

目的：サービス管理責任者等の本来業務を実践するために、個別支援計画の作成に携わっていることを前提として、サービス提供プロセスにおける「管理」、具体的には「支援会議の運営」、「サービス提供職員への助言・指導」について講義および演習を実施する。また、演習等によるグループワーク等を実施する中で、各自が実際に作成した「個別支援計画」の内容等の質の向上を図る。

- ・ 修了時の到達レベルは、2年間の個別支援計画作成・修正の経験をベースに個別支援計画作成・修正について熟達し、関係機関との連絡調整や支援会議の運営、サービス提供職員に対する技術的な指導・助言等一連のサービスプロセス管理業務が行えるレベルとする。
- ・ 修了後の役割像としては、実践研修修了により従来のサービス管理責任者等の業務に携わること(サービス管理責任者等資格取得)を想定。

対象：サービス管理責任者等基礎研修を修了し、2年以上の実務経験を経た者

5年以上の実務経験を経た者は、当分の間、基礎研修と実務研修を同年に受講可能とする。

問 20 研修の目的についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 十分だと思う | 3. あまり十分だとは思わない |
| 2. 概ね十分だと思う | 4. 不十分だと思う |

問 20-1 その理由をお答えください。(自由記載)

問 21 以下の研修項目はサービス管理責任者等の業務を行う上でどの程度必要とご思いますか。最も近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	とても必要だ と思う	まあ必要だ と思う	あまり必要 と思わない	全く必要 と思わない	数に ご自身 が必要な 時間 修得
1. モニタリングの方法 (講義)	1	2	3	4	時間
2. モニタリングの方法 (演習)	1	2	3	4	時間
3. 個別支援会議の運営方法 (講義)	1	2	3	4	時間
4. 個別支援会議の運営方法 (演習)	1	2	3	4	時間
5. 個別支援会議におけるサービス管理責任者等の役割 (演習)	1	2	3	4	時間
6. サービス提供職員等への助言・指導について (講義)	1	2	3	4	時間
7. OJT としての事例検討会の進め方 (演習)	1	2	3	4	時間
8. 障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向 (講義)	1	2	3	4	時間
9. (自立支援)協議会との連携 (講義)	1	2	3	4	時間
10. サービス担当者会議等における多職種連携や地域連携の 実践的事例 (報告・発表やシンポジウム)	1	2	3	4	時間
11. サービス担当者会議等における多職種連携や地域連携に 関するまとめ (演習)	1	2	3	4	時間

問 21-1 その他、サービス管理責任者等実践研修において更に必要だと思う研修項目があれば、お答えください。(自由記載)

問 22 上記研修内容を受講するために、あなたご自身が受講されるとしたら何日間であれば実際に受講可能ですか。連続で受講する場合と1カ月間で受講する場合(日数と受講方法)についてお答えください。職場を離れられる日数や、取得できる有給休暇の日数等から、現実的な日数をお答えください。

連続での受講可能日数	1カ月間での受講可能日数	受講方法
連続 _____ 日間	1カ月に _____ 日間	

※例) 1カ月の間に4日間 受講方法:隔週土日

問 22-1 その理由をお答えください。(自由記載)

問 23 サービス管理責任者等実践研修の受講要件についてお伺いします。受講要件を基礎研修修了後に実務経験2年以上と設定することについてどのように思いますか。(○は1つ)

1. 長すぎると思う	3. 妥当だと思う	5. 短すぎると思う
2. やや長いと思う	4. やや短いと思う	

問 23-1 その理由をお答えください。(自由記載)

サービス管理責任者等更新研修について伺います。

(3) サービス管理責任者等更新研修 (別紙 P. 6 参照)

目的：・行政動向、制度改正等の最新の情報（アップデート）を図る。
 ・サービス管理責任者等の実践報告等によりこれまでの業務内容を振り返るとともに実践内容の確認をし、知識・技術の更なる底上げを図る。
 ・サービス管理責任者等として、サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ。

対象：サービス管理責任者等実践研修を修了し、実際に業務に従事している者で、5年以内に受講する者

問 24 研修の目的についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 十分だと思う | 3. あまり十分だとは思わない |
| 2. 概ね十分だと思う | 4. 不十分だと思う |

問 24-1 その理由をお答えください。(自由記載)

問 25 以下の研修項目はベテランのサービス管理責任者等として業務（個別支援計画作成・モニタリング、スーパーバイザー等）を行う上でどの程度必要とご思いますか。最も近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	と 思 う	と も 必 要 だ と 思 う	思 う ま あ 必 要 だ と	あ ま り 必 要 と 思 わ な い	全 く 必 要 と 思 わ な い	数 に ご 自 身 が 修 得 に 必 要 な 時 間
1. 障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向（講義）	1	2	3	4	時間	
2. サービス提供事業所としての自己検証（演習）	1	2	3	4	時間	
3. サービス管理責任者等としての自己検証（演習）	1	2	3	4	時間	
4. 事例検討（演習）	1	2	3	4	時間	
5. 関係機関との連携（演習）	1	2	3	4	時間	
6. 研修のまとめ（演習）	1	2	3	4	時間	

問 25-1 その他、行政動向、制度改正等のアップデートやご自身のサービス管理責任者等の業務の質の担保のために更に必要だと思う研修項目があれば、お答えください。(自由記載)

問 26 上記研修内容を受講するために、あなたご自身が受講されるとしたら何日間であれば実際に受講可能ですか。連続で受講する場合と1カ月間で受講する場合（日数と受講方法）についてお答えください。職場を離れられる日数や、取得できる有給休暇の日数等から、現実的な日数をお答えください。

連続での受講可能日数	1カ月間での受講可能日数	受講方法
連続 _____ 日間	1 カ月間に _____ 日間	

※例) 1カ月の間に4日間 受講方法:隔週土日

問 26-1 その理由をお答えください。(自由記載)

問 27 更新の期間(5年)についてどう思いますか。(○は1つ)

1. 長すぎると思う	2. やや長いと思う	3. 妥当だと思う
4. やや短いと思う	5. 短すぎると思う	

問 27-1 その理由をお答えください。(自由記載)

事業分野別、障害分野別等実践研修について伺います。

(4) 事業分野別、障害分野別等実践研修

目的： サービス管理責任者等現任者が、それぞれのキャリア段階（サービス提供者段階、サービス管理責任者等基礎研修修了段階、実践研修修了段階、更新研修修了段階等）において、学ぶべき内容等（事業分野、障害特性、スーパービジョン等）、個々のスキルの向上や不足しがちな内容について必要に応じて受講する。各自の事業分野や障害分野において深く学べることができる研修であり、同種事業のサービス管理責任者等が持つ共通の問題を共有し解決策を探ることができる実践的な研修とする。

なお、マネジメントスキルや地域連携スキル等、内容によっては相談支援の専門コース別研修との共有化も検討。

対象： サービス管理責任者等実践研修を修了し、実際に業務に従事している者

サービス管理責任者等基礎研修修了者であって実践研修を修了していない者でも、自身のキャリア形成に必要な内容であれば受講可能とする。ただし、研修の質を担保するために、予め業務の経験等受講要件を設定する必要がある。

研修項目と獲得目標： 研修ごとに設定

問 28 ご自身の提供サービス内容や、スキルの不足部分・必要部分に応じて実施する「事業分野別、障害分野別等実践研修」を整備する必要があると思いますか。（○は1つ）

- | | |
|----------|--------------|
| 1. とても必要 | 3. あまり必要ではない |
| 2. まあ必要 | 4. 必要ではない |

問 28-1 その理由をお答えください。（自由記載）

問 29 以下の1～34の項目が、基礎研修時、基礎研修修了後2年間、実践研修時、更新研修時において、それぞれの程度必要と思いますか。それぞれの項目において最も近いもの1つに○をつけてください。

	基礎研修の研修項目としての必要度				基礎研修修了後の2年間における必要度				実践研修の研修項目としての必要度				更新研修時の必要度			
	思う とても必要だと	思う まあ必要だと	思わない あまり必要と	全く必要と思 わない	思う とても必要だと	思う まあ必要だと	思わない あまり必要と	全く必要と思 わない	思う とても必要だと	思う まあ必要だと	思わない あまり必要と	全く必要と思 わない	思う とても必要だと	思う まあ必要だと	思わない あまり必要と	全く必要と思 わない
1. 療養介護のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 自立訓練（機能）のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 自立訓練（生活）のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 共同生活援助のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 就労移行支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 就労継続支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 児童発達支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 権利擁護の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 虐待防止の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 意思決定支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
11. セルフマネジメントのスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
12. サービス管理のスキル（会議運営、指導助言等）	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
13. 指導助言（スーパーバイズ）のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 家族支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 交際・結婚の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 看取りのスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

17. 妊娠・出産の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 住居支援のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
19. 移動・移乗のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
20. 金銭管理のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 救急対応のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
22. 就労・就学の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
23. 入退院の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
24. 他職・他機関種連携のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
25. 記録のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
26. データ管理のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
27. 個人情報保護の知識	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
28. 調査法とその活用のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
29. プレゼンテーションのスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
30. 事業所評価のスキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
31. 重症心身障害児(者)への支援スキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
32. 強度行動障害者・発達障害者への支援スキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
33. 高次脳機能障害者への支援スキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
34. 全身性重度障害者への支援スキル	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

問 30 現状のサービス管理責任者等像とこれからあるべきサービス管理責任者等像についてどのようにお考えですか。実際のサービス管理責任者等の方の知識・技術レベル、働き方について、および今後のあるべき像について、お考えをお書きください。

現状のサービス管理責任者等像	これからあるべきサービス管理責任者等像

問 31 今後のサービス管理責任者等のキャリア形成における課題やキャリア形成の在り方等について、お考えのことをご自由にお書きください。

--

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

障害福祉サービスにおける質の確保とキャリア形成に関する研究
サービス提供従事者のキャリアパスの研修プログラムについて（分担研究報告書3）

分担研究者 本名 靖（東洋大学 教授）

研究要旨：

平成18年4月より障害者自立支援法が施行され、サービス管理責任者（後に児童発達支援管理責任者も）が配置されることになった。サービス管理責任者等の業務は、指定基準省令において、個別支援計画・児童発達支援計画を作成し、サービス提供プロセスを管理すること、サービス提供職員に助言や指導を行うこと等が責務として規定された。しかしながら、サービス管理責任者等研修は、サービス管理従事者のキャリア形成が考慮されていないことなどについて、分担研究1において、過去の調査研究からサービス管理責任者等研修における現状と課題を明らかにした。そこで、本研究は、サービス提供従事者の質の確保を図る観点から、(1)サービス提供従事者のキャリア形成に資する研修体系を構築するとともに、サービスの質の担保にサービス管理責任者等が重要な役割を担うことから、キャリア形成の目標としてサービス管理責任者等を想定し、(2)その研修プログラムを各段階に応じて開発し、(3)モデル研修を通じて検証し研修内容を提案する。

平成27年度は、研究計画の1年目であり、研究班により過去の研究データからサービス管理責任者等養成における現状と課題を明らかにするとともに、ニーズ分析と設計の作業を行い、「研修体系と研修プログラム」（素案）を開発する。この素案について、サービス管理責任者等及び都道府県担当者に対して、アンケートによる確認作業を2回程度行い、そのデータを分析して、研修体系及び研修プログラム案の開発を行う。

A. 研究目的

第1段階として、研究班により過去の研究データからサービス管理責任者等養成における現状と課題を明らかにする（分担研究1）とともに、ニーズ分析と設計の作業を行い、研修体系案と研修プログラム案を開発する。

第2段階として、サービス管理責任者等及び都道府県担当者に対して、これらの案についてアンケートによる確認作業を2回程度行い、そのデータを分析して、研修体系及び研修プログラム案の開発を行う。

第3段階として、研修体系に立脚しながら、モデル研修を実施し、研修プログラム及び研修内容の有効性を検証し、最終的に研修体系及び研修プログラム等の提案を行う。

平成27年度は、研修体系案及び研修プログラム案の設計を行い、研修体系と研修プログラム

の開発を目指す。

B. 研究方法

(1)「研修プログラム」（素案）の検討

スパイラル型ID(インストラクショナル・デザイン)の手法を用いて、研修プログラムの開発を実施する。

第1段階として、過去の研究データからサービス管理責任者等養成研修の在り方を検討し、研修体系及び研修プログラム案（素案）を作成する。

第2段階として、作成した研修体系とプログラム案を都道府県担当者と都道府県の中心的なサービス管理責任者（都道府県から派遣され、国研修を受け、都道府県で研修のファシリテーターを経験している）に対して自記式アンケート調査による確認作業を2回行い、そのデータ

を分析して、研修体系及び研修プログラム案の修正を行う。

第3段階として、この修正した案に基づいたモデル研修を実施し、最終的な研修体系と研修プログラムを確定することとする。

(2) 調査対象

サービス管理責任者については、各都道府県研修委員会を通じて対象者の抽出と調査の依頼を行った。対象は970名とした。その内訳は以下の通りである。

対象1：サービス管理責任者	人数
国研修の講師	5名
国研修ファシリテーター5名×5分野	25名
一般サービス管理責任者20名×47	940名
合計	970名

対象2：都道府県	人数
都道府県障害福祉局人材育成担当者	47名

(3) 先行研究分析結果

1) 研修体系・プログラム素案の作成

過去の研究データからサービス管理責任者等養成における現状と課題を以下のように抽出した。

課題1：研修が5分野（介護、地域生活（身体）、地域生活（知的・精神）、就労、児童）に分かれており、各事業所に配置されるサービス管理責任者等は、それぞれの研修を受講する必要があるため、研修が負担になっているのではないか。

課題2：地域生活（知的・精神）分野で身体のグループホームも含んでいる等、分野別研修内容が実態に即していないのではないか。

課題3：現行の研修要件では、一度だけの研修受講に留まっているが、質を担保するためには、段階的なキャリア形成の仕組みと資格の更新研修が必要ではないのか。

課題4：資格取得後に、事業分野・障害分野別に実践的な研修を行う機会を設ける必要があるのではないか。

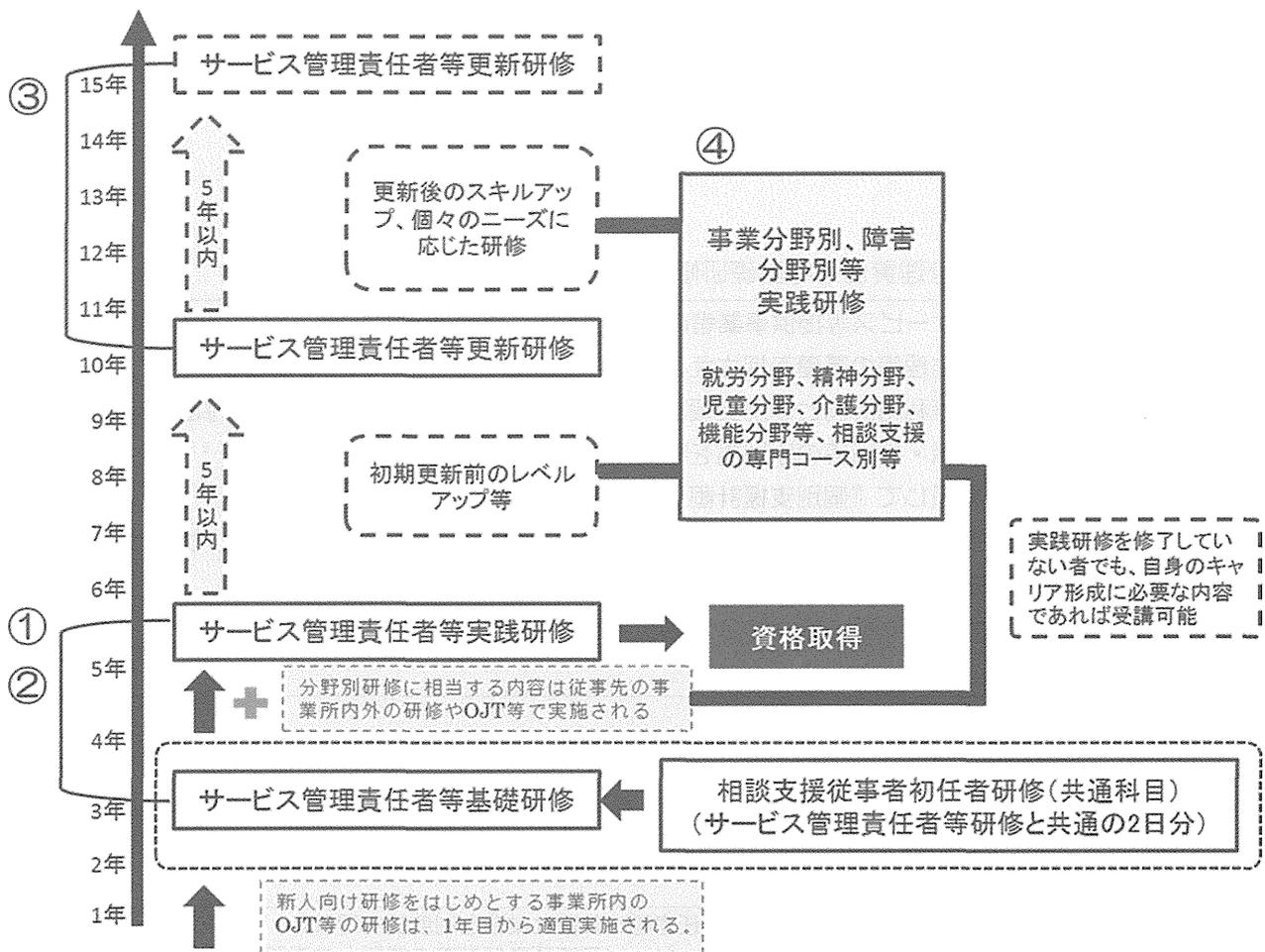
以上の課題から、現状の研修体制の変更点（案）を以下の通り整理した。

1	現行のサービス管理責任者等研修を基礎研修と実践研修に分ける。 【必須研修】
2	現行の分野別研修は現行のサービス管理責任者等研修から分離して別途実施する。 【任意研修】
3	更新研修を新設する（サービス管理責任者等取得後5年以内毎に受講）。 【必須研修】
4	事業分野・障害分野別等実践研修を新設し、受講者個々の必要性に応じて選択・受講できる形態とする 【任意研修】

また、基礎研修受講概要、実践研修受講概要等については以下の通り素案を作成した。実際に回答者に送付した「(別紙) サービス管理責任者等の研修体系（素案）の概要」を図表に示した。

(倫理面への配慮)

倫理的な配慮として、和洋女子大学ヒトを対象とする生物医学的・疫学的研究に関する倫理委員会に提出して承認を得る。また、調査対象者の個人情報、代表研究者が厳重に保管するとともに、個人を特定できないように統計的処理を行う。なお、調査に対しては拒否できることを明記する。



図表 3-1 研修体系（素案）の概要

※ 図中①～④は、図表 3-3 から図表 3-6 に示す。

図表 3-2 現状からの変更点

現状の研修体制からの変更点
①現行のサービス管理責任者等研修を基礎研修と実践研修に分けること【必須】
②現行の分野別研修は現行のサービス管理責任者等研修から分離して別途実施すること【任意】
③更新研修の新設（サービス管理責任者等取得後5年以内毎に受講）【必須】
④事業分野別、障害分野別等実践研修を新設し、受講者個々の必要性に応じて選択・受講できる形態とする【任意】

また、①サービス管理責任者等基礎研修の概要（素案）を表2に、②サービス管理責任者等実践研修の概要（素案）を表3に、③サービス管理責任者等更新研修の概要（素案）を表4に、④事業分野別、障害分野別等実践研修の概要（素案）を表5に示す。なお、事業分野別、障害分野別等実践研修のプログラム案については、研究分担者の山口が精神障害分野を主体として提案することとしている。

案）を表5に示す。なお、事業分野別、障害分野別等実践研修のプログラム案については、研究分担者の山口が精神障害分野を主体として提案することとしている。

図表 3-3 サービス管理責任者等基礎研修の概要（素案）

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉サービス等提供事業者の職員として、障害福祉サービス等の提供に関する基本的な理念や倫理等の基礎を押さえる。 ・ サービス等利用計画と個別支援計画の関係や、個々の利用者に応じた『個別支援計画』の意味・知識・技術等の原則論を押さえる。 ・ 演習等を通じて『個別支援計画』作成の能力を獲得する。 ・ 本研修受講者が数年後にはサービス管理責任者等になることを踏まえ、サービス管理責任者等に求められる基本的な役割等を押さえておくものとする。
対象	サービス提供事業所において3年の実務経験を経た者

研修項目と獲得目標（案）		
	研修項目	獲得目標
1	障害者福祉施策及び児童福祉施策の歴史の変遷（講義）	制度理解を通じて、障害者支援の制度改革を利用者主体から発信する力を身につける。
2	サービス管理責任者等の役割と業務（講義）	サービス管理責任者等の役割と業務を制度的に理解し、サービス管理責任者等と管理者の違い、サービス管理責任者等の業務上の責務（個別支援計画作成の業務、サービス提供プロセスの管理、サービス提供職員等に対する助言・指導等）を理解する。
3	サービス提供の基本的な考え方（講義）	サービス提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づくサービス提供、連携の必要性等を理解する。
4	サービス提供のプロセス（講義）	サービス提供のプロセスを理解し、PDCAサイクルでサービス提供できる実践力を獲得し、プロセスにおけるサービス内容のチェック方法を習得するとともに、個別支援計画の意義を理解する。
5	サービス等利用計画等と個別支援計画の関係（講義）	サービス等利用計画等における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点がサービス等利用計画等の総合的な援助方針であることを認識する。また、サービス等利用計画等が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内サービスに重点を置いた計画であることを理解する。現状の相談支援体制を理解する。
6	サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント（講義）	サービス提供事業所のアセスメントの考え方やアセスメントの手法を習得する。
7	個別支援計画作成のポイントと作成手順（講義）	個別支援計画がリスクマネジメントのみに陥らないように、エンパワメントの視点やストレングスモデルを理解するとともに、作成の手順を習得する。
8	個別支援計画の作成（演習）	申請者の基本情報、アセスメント票から総合的な援助方針を立て、援助方針に沿った長期目標及び短期目標を設定する。総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を考慮して、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等をグループワークにより検討し、個別支援計画を作成する。